

令和8年度 訪問看護新人研修報告

日時: 令和8年7月18日(土) 13時30分～16時30分

場所: 京都府医師会館6階 603号+Web



講師: 株式会社アドナース
訪問看護認定看護師
鎌田 智広 氏

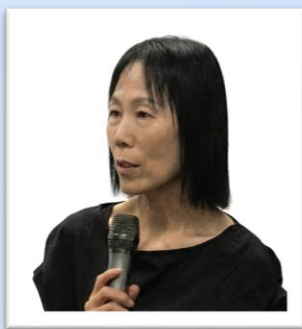
開会挨拶

今日は、本当にこのような厳しい暑さの日に、皆さんたくさんお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。訪問看護師さん募集してもなかなか来ないような現状があるんですけど、そんな中、皆様が訪問看護師を目指されて、今勤められているということを本当に嬉しく思っています。協議会としても、皆さんのことを全力で応援していきたいと思っています。本日ご講義いただく株式会社アドナースの鎌田智広先生は、訪問看護だけではなく、訪問介護、放課後デイなど様々多岐にわたる経営をされていまして、私も新人の時に聞いたかったなというような内容になるかと思ひますし、皆様も質問など積極的にしたいいただいて、学びになったらと思っています。今日は、ちょっと事業所ではなかなか聞けないことや、悩みや不安などいっぱいあると思うんですけども、そのあたりをグループで話し合っ、そして皆さんが笑顔になって帰っていただくことをできたらなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



訪問看護ステーションたんぽぽ
協議会副会長 田辺 順子

司会



訪問看護ステーションすばる
協議会副会長 川上 麻由美





本日の目標

- 1) 日頃の不安が一つ解消する
- 2) 明日からも訪問看護を続けたい！と思うことができる

講義内容

1) 訪問看護のマナー

訪問看護の場は病院ではなく「個人の家」であり、利用者のパーソナルスペースに招き入れてもらう必要がある。そのため、第一印象を左右する身だしなみや、靴の脱ぎ方、名刺の渡し方といった細かな所作(接遇)が、看護を実践するための信頼関係を築く鍵となる。現地では実際の所作を実習した。

2) 訪問看護の制度

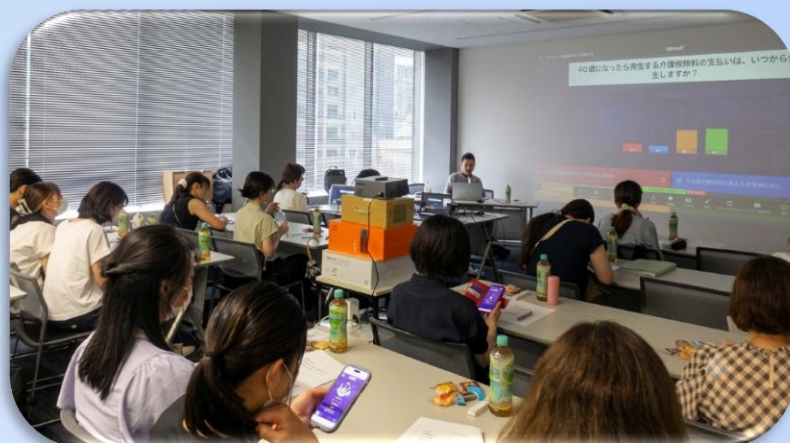
医療保険と介護保険制度は非常に複雑で頻繁に改定される。新人のうちは、不明な点は知らないことを正直に伝え、持ち帰って調べてから回答することが、金銭トラブルなどを防ぐ上でも重要である。この場面では実際12問のクイズ形式にて全員参加型の回答を行った。都度回答率のランキングなどが表示され、楽しみながら学びを深めた。

3) 訪問看護の災害対策

災害時の心得として、看護師は災害救助のプロではなく看護のプロであることを自覚すべきである。災害発生時には、二次災害を防ぐためにも、まずは自分自身と家族の身を守ることを最優先に考えるべきである。自身が元気であることが、より多くの方を救うことにつながる。

4) 訪問看護師として心がけたいこと

看護師の一般教養と患者の死亡率には相関があるという調査結果を引き合いに、多様な考え方に触れ、思考の幅を広げることが看護の質の向上に繋がる。訪問看護は対人援助職としてストレスが溜まりやすいため、趣味やペットなど自身にとって多様なストレス発散方法を持つことが、仕事を継続する上で不可欠である。ナイチンゲールの「究極の目的は家庭で看護すること」という言葉を引用し、病院とは異なる生活の場での看護に誇りを持つよう促された。講師自身の父親を自宅で看取った経験からも、訪問看護が家族にとっていかに大きな支えになるかを伝えられた。



グループワーク

本研修は、単なる知識の伝達だけでなく、グループワークを通じて新人同士が悩みを共有し、繋がりを作ることも大きな目的としている。



アンケート結果より

「明日からの看護実践に役立つ」「とても役に立つ」92%、「役に立つ」8%と回答している。
研修全体の時間配分については、96%が肯定的（「とても良かった」78%、「良かった」18%）であった。
グループワークについても、参加者全員が「とても良かった」（83%）または「良かった」（17%）と評価している。

不安の共有と連帯感の醸成

他のステーションの新人看護師と交流することで、**「悩みはみんな一緒だ」**という気づきを得て、孤独感や不安が軽減された。

自分と同じように不安を抱えながら頑張っている仲間を知り、大きな励みやストレス発散になった。

様々な年代や異なる事業所の状況について情報交換ができたことが、非常に参考になった。

訪問看護継続への意欲(モチベーション)

研修を経て、100%の参加者が「今後も訪問看護師を続けようと思った」（「とてもそう思った」74%、「そう思った」26%）と回答した。

「明日からまた頑張りたい」「ネガティブな気持ちを楽しいことに変換していきたい」といった、前向きな意識の変化が見られた。

目指すべき看護師像の再確認

利用者・家族への寄り添い「その人らしさを守る」「1人ひとりに丁寧な看護を提供する」「思いやりを持つ」といった、生活者に寄り添う視点が多くみられた。

信頼関係の構築

「この人なら相談したいと思ってもらえる」「安心して任せてもらえる」「来てくれて嬉しいと思われる」訪問看護師を目指す声が多く挙がった。

サポートのあり方

自身の看護観を押し付けず、利用者と一緒に考えていける存在になりたいという決意が示された。

広報委員より

最初は皆さんかなり緊張されている様子でしたが、鎌田先生が講義の中で実習やクイズ形式を取り入れるなど趣向を凝らしてくださり、リラックスして楽しく学ぶことができたと思います。また、グループワークで日頃の思いや悩みを共有し合えたことで、非常に良い対話の場となりました。「自分だけではないんだ」という安心感や横のつながりを得られ、今後にもつながる素晴らしい研修会になったと感じています。お帰りの際の、皆さんの晴れやかな笑顔がとても印象的でした。